

去る4月4日(出)小形山集会所にて、尾県郷土資料館開放講座が開催されました。昭和60年度で教室の復元など教育資料館としての充実・整備を終え、資料館の積極的な活用を図るため今年度から行われたものです。今回は、「オオムラサキ観察会」と題し、地元の尾県郷土資料館協力会々員を初め、禾生第二小学校児童など約100名が参加し、講師には、都留文科大教授今泉吉晴先生と、動物学研究室の学生があたり、資料館横の稲村神社境内にあるエノキの大木に生息するオオムラサキの生態について講義が行われました。

# 尾県郷土資料館開放講座

## 舞い上れ！オオムラサキ

□ 文大動物学教室 □ 禾二小児童 □ 資料館協力会



チヨウのことを学んで

禾二小

六年 柴田 千秋

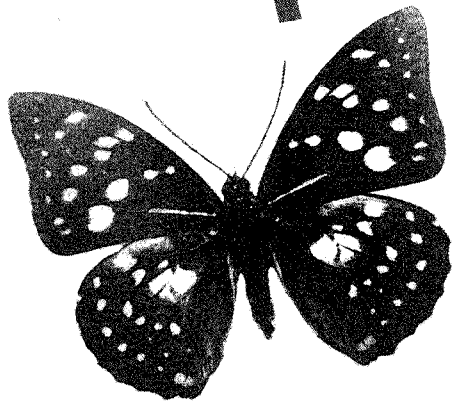
立派な大木、その立派な大木にきれいなチヨウが住んで

### 自然教室へ行って

禾二小

六年 尾形 繁光

ぼくは、しぜん教室へ行き、たいへん勉強になりました。オオムラサキの食草や、冬のこしかたなど自分でしらなかつたことがよくわかりました。ぼくもまえからチヨウが大好きでした。チヨウのさいしゅうや、たまごからチヨウま



いる。

春になるとよくモンシロチヨウをみつける。今日の勉強では、モンシロチヨウのことも大学の人達が、いろいろ工



での観察をして、アゲハチヨウとタテハチヨウのちがいがいなど、いろいろなチヨウのことを勉強しました。チヨウの自由研究も、みんないままでチヨウのことをしらべたりして

夫して、わかりやすく説明してくれたので、細かい所まで良く分った。

私達の住んでいる、小形山にすてきなチヨウ・オオムラサキがいる。よう虫などを見せてもらった。よう虫は、初めて見る。最初見たときは、きたなそうで、いやな感じだったけど、見ているうちに、かわいがかつこうに、なったりして、きたないなんて思ったりはしなかった。色は茶色。ねているみたいのもいた。

スライドで教えてくれた時、自分の安全のことを考えて、体を作っていく。とっても頭が良んだなと思った。すてきなチヨウ・オオムラサキをこれから大切に育てていきたい。

それにまたチヨウのことをおしえてもらいました。

ぼくがしぜん教室へ行き、ちばん勉強したことは、オオムラサキの食草です。あとそれに、オオムラサキのよう虫を見られたことです。それに、あのエノキが、四つのチヨウの食草だとは思いませんでした。チヨウは、一つ一つ食草がちがうと言ったこともよく勉強になりました。またチヨウのことを教えて下さい。